

# 2.ブロック別の概要（ブロック区分）

## ブロック区分

宇治川圏域を、河川の特徴、行政界、土地利用や開発状況に応じて、3つのブロックに分割する。

### 宇治川下流右岸ブロック

ひがしたかせ ななせ うしがわはりゅう ごう やましな どう あいば きゅうあんしやうじ  
 ……東高瀬川、七瀬川、宇治川派流、濠川、山科川、堂の川、合場川、旧安祥寺川、  
 にしのやま ふじお しのみや みだじろう たたかい しんでん  
 西野山川、西野山川支川、安祥寺川、藤尾川、四宮川、弥陀次郎川、戦川、新田川

■ 宇治川の下流部右岸に位置し、宇治市の北西部、京都市の南部、八幡市の一部から構成され、宇治市、京都市を中心に人口が多く、市街地が広い範囲で形成されている。

### 宇治川下流左岸ブロック

…古川、井川、名木川

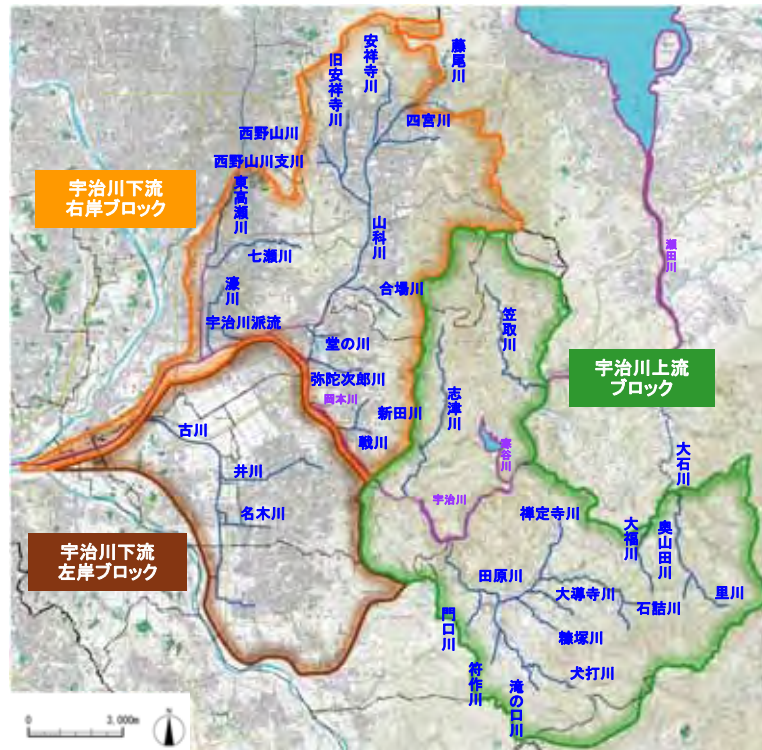
■ 宇治川の下流部左岸に位置し、宇治市の南西部、城陽市、久御山町、八幡市の一部から構成され、宇治市、城陽市を中心に人口が多く、市街地が広い範囲で形成されている。

### 宇治川上流ブロック

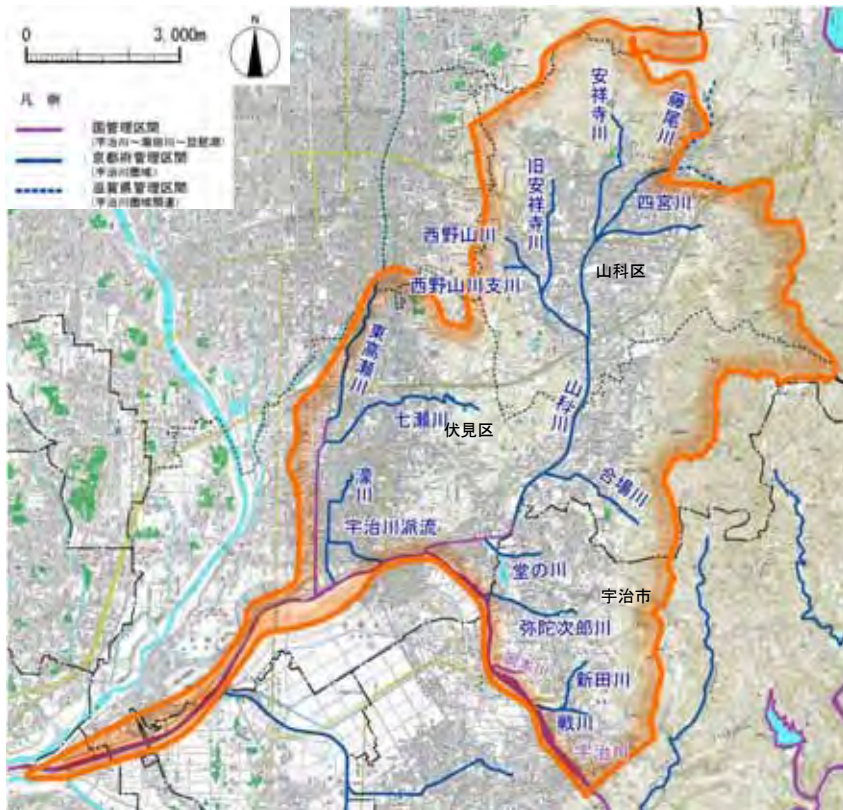
しづ たわら もんくち いぬうち ふぶくり たきのぐち ぬかづか だいどうじ  
 ……志津川、田原川、門口川、犬打川、符作川、滝口川、糠塚川、大導寺川、  
 ぜんていじ いしづめ かさと おくやまだ だいふく さと  
 禅定寺川、石詰川、笠取川、奥山田川、大福川、里川

■ 宇治川の上流部に位置し、宇治市の東部、宇治田原町、和東町の一部から構成され、山地が多くを占め、自然が豊かである。

<宇治川圏域のブロック区分>



## 概要



項目	宇治川圏域内
河川名	東高瀬川、七瀬川、宇治川派流、濠川、山科川、堂の川、合場川、旧安祥寺川、西野山川、西野山川支川、安祥寺川、藤尾川、四宮川、弥陀次郎川、戦川、新田川
流域面積計	約78km <sup>2</sup>
延長計	約40km

- ブロックの約1/2は市街化されている。ブロックで最も流域面積が大きい山科川も同様に市街地が多い。
- 山科川の支川も含め、流域面積が10km<sup>2</sup>以下の小規模河川が多い。
- 京都市の管理河川が11河川ある。

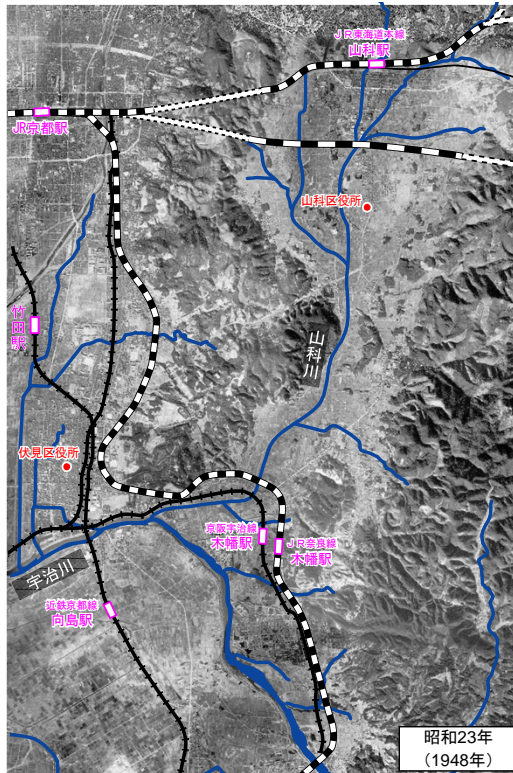
## 河川の特徴

- 上流のごく一部の山地部・農地部を除いて、市街地を流れる都市河川。
- 合流先河川の堤防に対して地盤が低いため、下流端に排水機場が設置された内水河川(宇治川派流・濠川・堂の川)と、山地の水だけを集める天井川(戦川、弥陀次郎川)がある。
- 宇治川派流は、かつて舟運に使われていた三栖閘門が下流端(国管理区間)に設置されている。
- 四宮川は、上流部が滋賀県管理。藤尾川は、下流側右岸が京都市管理である他は滋賀県管理。



## 社会環境・開発状況

- 伏見地区は、安土桃山時代に伏見城の城下町として都市化された古くからの市街地。江戸時代には大坂～京都の水運の中継地として繁栄し、宇治川派流などの近くには造酒屋や酒蔵が立地。
- 山科川流域、宇治川沿川は、高度経済成長期に団地開発により都市化。地下鉄東西線の開通(二条～醍醐間1997年、醍醐～六地蔵間2004年)に伴い、駅周辺に商業施設等が集積。
- 山科川流域は、名神高速道路、阪神高速8号京都線、国道1号、府道大津宇治線(36号)、東海道新幹線、JR東海道本線、地下鉄東西線、京阪京津線等の主要交通路が縦横に走り、交通の要衝となっている。



出典：国土地理院写真



出典：京都府資料

山科川流域および周辺部の空中写真の比較

## 自然・景観

- 上流部の山地部を除いて、平地部の流域は都市化が進み自然植生に乏しく、動植物も少ない。
- 川幅が広く流量の多い山科川など一部の河川には、水際植生や魚類が見られる。他の小支川では水路形態で植生は少なく、流量に乏しいため魚類はほとんど見られない。
- 山科川の旧安祥寺川合流点付近では、オイカワ、カワムツ、カマツカ、カワヨシノボリが多く、フナ類が多少確認された。他にモツゴ、ムギツクが多少確認されたほか、オオクチバスが多数捕獲された。
- 堂の川の下流端は木幡池となっており、かつての巨椋池の一部である。水質改善等の課題はあるが、湿地など貴重な自然環境が残っている。



山科川 両岸ともコンクリート護岸で、落差工下流に中洲が形成され、水際の植生が発達している。



木幡池の状況 (大島排水機場付近)



山科川 ムギツク  
京都府調査資料



山科川 モツゴ  
京都府調査資料



山科川 カマツカ  
京都府調査資料



旧安祥寺川 コサギ

## 歴史・文化財

- 現在の伏見港は公園として整備され、その上流の宇治川派流には観光船が運航している。
- 古来から開けた地域であることから、河川名の由来となった伝説、姫伝説・物語、宇治陵などの遺構が残る。

伏見港・宇治川派流



現在の伏見港(伏見港公園)

出典: 京都府HP <http://www.pref.kyoto.jp/port/fushimi.html>



観光船として運航される十石船と酒蔵  
(宇治川派流)

### 河川名の由来

#### 《戦川(たたかいがわ)》

香坂(かごさか)王、忍熊(おしくま)王兄弟が神功皇后に対して反乱を起こした際、忍熊王は「戦川」を挟んでの激戦の末敗れ、琵琶湖に身を投げて亡くなったという。  
出典: 文理閣「やさしい宇治の歴史」

#### 《弥陀次郎川(みだじろうがわ)》

鎌倉時代の初め、淀の次郎は、仏を敬わず近所の付き合いも悪く悪次郎と呼ばれていた。托鉢(たくはつ)の僧が毎日訪れることに腹を立てた次郎は、乱暴をはたらく。怒ることもなく立ち去る僧の後をつけたところ、僧が入った光明寺(長岡京市)の釈迦如来像の左頬に火傷の跡があった。驚いた次郎は後悔した。次郎は僧からの夢告を受け、淀川から阿弥陀像を引き上げた。その後、仏門に帰依して村民に尽くすようになった次郎は、世の人々から「弥陀次郎」と呼ばれるようになり、西方寺の僧となったという。  
出典: 「西方寺縁起」

### 様々な姫伝説・物語

- ・橋姫伝説(宇治川本川)
  - ・木幡狐: きしゅ御前の物語(御伽草子に収録)
  - ・竹取物語: かぐや姫の名付け親は三室戸の人とされている
  - ・木幡の時雨: 中の君の物語
- 出典: 勉誠出版「宇治川歴史散歩」



### 宇治陵(木幡墓所)

京都と宇治平等院の間に位置し、堂ノ川、弥陀次郎川流域にあたる。17陵3墓が皇紀・王子20人の御陵とされているが、大小320の陵墓群は藤原摂関家に関係するものと考えられている。  
出典: 文理閣「やさしい宇治の歴史」

### 読みが一定しない「木幡」

地名は4世紀に登場する古いものだが、地元での読みは一定しない。  
「こはた」: JR西日本、小学校  
「こわた」: 京阪電鉄、中学校、郵便局  
「こばた」: 郵便局の旧称  
出典: 文理閣「やさしい宇治の歴史」

下流右岸 ブロック	国宝・重要 建造物		世界遺産	国指定史跡名勝天然記念物						京都府指定・登録等文化財								
	重文	国宝		史跡		名勝		天然記念物		建造物		史跡		名勝		天然記念物		文化財環境 保全地区
				—	特別	—	特別	—	特別	指定	登録	指定	登録	指定	登録	指定	登録	
山科区	2			2						1								
伏見区	19(23)	6(7)	1	3(4)	1(1)					2(2)								
宇治市	8(13)	2(3)	1	2(3)						7(7)	1(3)	1(1)		1(2)				1(2)

※数字: ブロック内の件数 ( ) : 市・町内全件数 ※国宝、特別史跡の件数は、重要文化財、国指定史跡の件数の内数である。  
世界遺産: 「古都京都の文化財」として登録されている。(伏見区: 醍醐寺 宇治市: 宇治上神社)

## 概要



項目	宇治川圏域内
河川名	古川、井川、名木川
流域面積計	約52km <sup>2</sup>
延長計	約17km

- ブロックの約1/2は市街化されており、古川およびその2支川で形成される。
- 古川流域の上・中流部に位置する城陽市から宇治市にかけては、高度経済成長期から市街化が進行している。
- 近年では旧巨椋池干拓地にも新興住宅が進出している。

## 河川の特徴

- ブロックの北半部は、かつての巨椋池であり、右下図の中段地区は太閤堤の時代に、下段地区は昭和初期の干拓事業に、陸地化された。
- 宇治川や木津川の流入部に設置された、久御山(国交省)、巨椋池(農水省)、城陽(京都府)の3箇所の排水機場により、宇治川や木津川の水位上昇時には強制排水している。

### 排水機場の現状

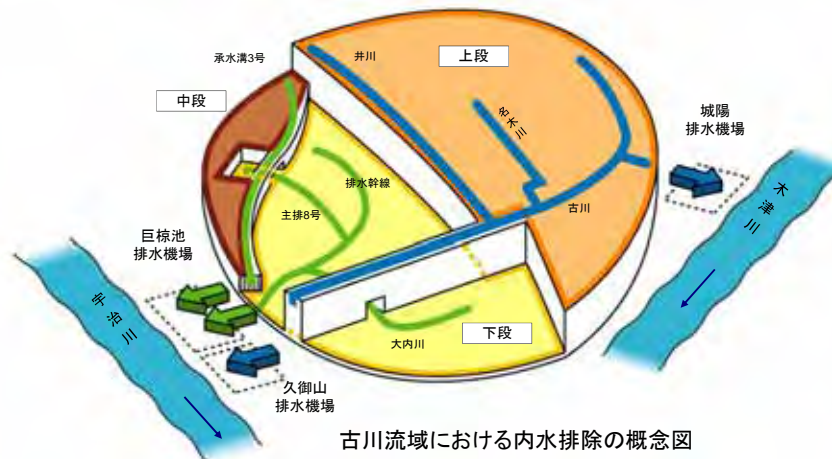
名称	管理者	排水先	排水能力 (m <sup>3</sup> /s)	設置年度
久御山排水機場	国土交通省	宇治川	90(将来120)	S48年度～H4年度
城陽排水機場	京都府	木津川	15	H2年度、H8年度
巨椋池排水機場	農林水産省	宇治川	80	H17年度



久御山排水機場(国土交通省管理)  
出典:近畿地方整備局HP



城陽排水機場(京都府管理)



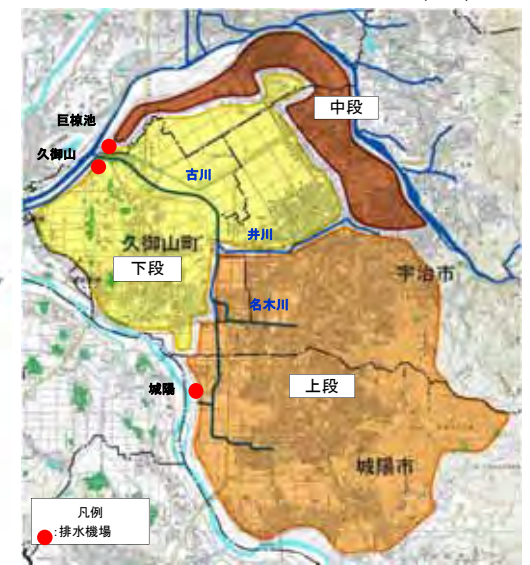
古川流域における内水排除の概念図



現在の井川



秀吉の伏見築城～江戸期の巨椋池  
出典:国営巨椋池農地防災事業HP(歴史)



古川流域平面図

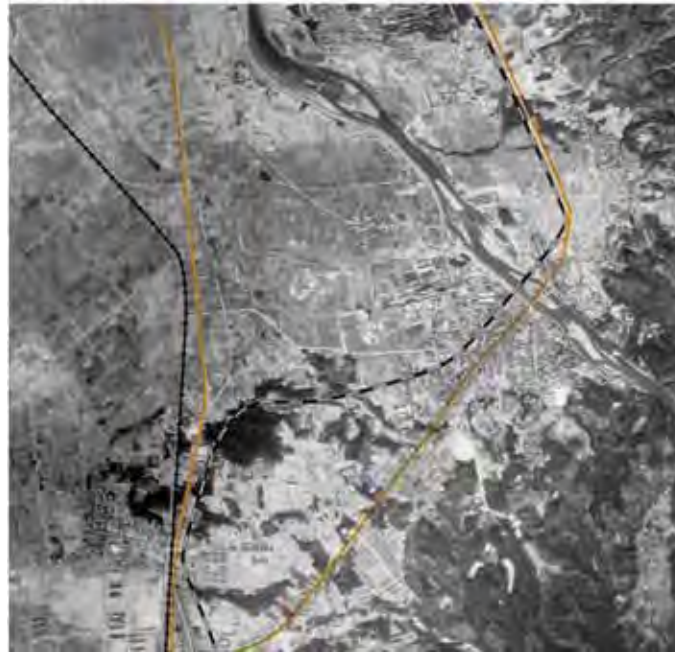
# 2.ブロック別の概要

## 宇治川下流左岸ブロック

【2/2】

### 社会環境・開発状況

- 人口は、昭和35年頃から始まった高度成長期に急増し、昭和55年までの20年間に、その約3倍に達した。
- 井川上流部丘陵および下流部旧干拓地の宅地化が急速に進められ、洪水時のピーク流量が増大したため、下流部の人口密集地域が氾濫常襲地域となった。



昭和23年(1948年)

出典：国土地理院写真



平成20年(2008年)

出典：京都府資料

### 歴史・文化財

- ブロック内には、平等院鳳凰堂、寺社などの貴重な文化財がある。
- 柿本人麻呂が「名木川」において詠んだ歌が、万葉集に5首収録されている。



さくらぎ  
雙栗神社本殿(国指定重要文化財)  
出典：久御山町HP

#### 名木河作歌

衣手の名木の川辺を春雨に我れ立ち濡ると家思ふらむか

柿本人麻呂

下流左岸 ブロック	国宝・重要 建造物		世界遺産	国指定史跡名勝天然記念物						京都府指定・登録等文化財						文化財環境 保全地区		
	重文	国宝		史跡		名勝		天然記念物		建造物		史跡		名勝			天然記念物	
				—	特別	—	特別	—	特別	指定	登録	指定	登録	指定	登録		指定	登録
宇治市	4(13)	1(3)	1	1(3)					0(7)	2(3)	0(1)		1(2)					1(2)
城陽市	3(3)			6(6)						3(4)								3(4)
久御山町	1									1								

※数字：ブロック内の件数 ( )：市・町内全件数 ※国宝、特別史跡の件数は、重要文化財、国指定史跡の件数の内数である。  
世界遺産：「古都京都の文化財」として登録されている。(宇治市：平等院)

### 自然・景観

- 巨椋池干拓地は、コミズクやケリの局地的な生息地であり、貴重な自然が残された地域となっている。
- 古川下流部は流れがよどみ水質も良好と言えないため、魚類は見られず、サカマキガイなど汚濁に強い貝が生息。

#### 京都の自然200選

野鳥(コミズク、ケリ等)の生息する巨椋池干拓地

<http://www.pref.kyoto.jp/sele/ct200/animal30.html> (京都府HP)



ユリカモメ(カモメ科)  
古川



コミズク  
ケリ(チドリ科) (フクロウ科)

### 概要



項目	宇治川圏域内
河川名	志津川、田原川、門口川、犬打川、符作川、滝口川、糠塚川、大道寺川、禪定寺川、石詰川、笠取川、奥山田川、大福川、里川
流域面積計	約96km <sup>2</sup>
延長計	約50km

- ブロックの大部分が丘陵および山地である。ブロックで最も流域面積が大きい田原川でも同様で、川沿いの低地および丘陵地に民家が存在する。
- 東部の奥山田川および大福川は、下流で滋賀県管理の大石川に流入している。

### 河川の特徴

- 宇治川・瀬田川(法河川名称はいずれも淀川)に合流する志津川、笠取川、田原川、奥山田川及びその支川から構成される。
- 奥山田川は大福川の合流直後に県境を越え、滋賀県管理の大石川と名を変えて瀬田川に合流している。
- 大部分の区間で渓谷部を流れる。
- 盆地部は、宇治田原町の中心部を除いて宅地が点在する。昭和28年洪水後の河川改修により、整備された状況となっている。



志津川上流部  
出典：京都府調査資料



犬打川  
出典：宇治田原町HP



笠取川  
宇治市総合野外活動センター「アクトバル宇治」川の広場



田原川



田原川(植生に覆われた状況)

# 2.ブロック別の概要

# 宇治川上流ブロック

【2/2】

## 社会環境・開発状況

○昭和60年代以降、宇治田原工業団地、緑苑坂テクノパークが開発され、このブロックの産業の中心となっている。現在も、工業団地賛田(ねだ)・立川地区が整備中。



宇治田原工業団地と茶畑  
出典：宇治田原町HP



・宇治田原工業団地  
宇治田原工業団地は、京都府下初の民間による工業団地として、昭和62年に分譲が始まり、現在では、71万平方メートルの敷地に50社以上の企業が立地している。(全区画完売)  
・緑苑坂テクノパーク  
宇治田原工業団地とは国道307号をはさんで向かい合う緑苑坂テクノパークは、11万平方メートルの工場用地が平成13年から分譲され、6社が立地している。また、隣接して全572区画の「緑苑坂ニュータウン」により宅地も提供されている。

## 自然・景観

○「日本緑茶発祥の地」である宇治田原町は、豊かな自然が特徴の「宇治茶の郷」として、観光客が訪れる。

○盆地部・丘陵部は市街化が進んでおらず、耕地が多い。その中でも、宇治茶の茶畑が面積の多数を占め、圏域の景観を特徴づけている。

○山地、渓谷、河川には良好な自然環境が残され、貴重な動植物も確認されている。



大福集団茶園



高尾梅林

出典：宇治田原町HP



湯屋谷大滝  
町指定文化財(名勝)



京都の自然200選

ゲンジボタルの生息する田原川  
(平成4年9月29日選定) 出典：京都府HP



カワムツ(志津川)  
出典：京都府調査資料



スジシマドジョウ(宇治田原町内)  
環境省絶滅危惧 I B類(EN)



ナゴヤダルマガエル(宇治田原町内)  
環境省絶滅危惧 II 類(VU)



マルタニシ(宇治田原町内)  
環境省準絶滅危惧 (NT)

出典：宇治田原町の野生生物 宇治田原町 H18.3発行

## 歴史・文化財

○京田辺～宇治田原～信楽の信楽街道として古くから往来があり、平安時代などに創建された寺社がある。

○本能寺の変後の、徳川家康「伊賀越え」の途上として知られている。



ぜんじょうじ 禅定寺 仏像の多くが重要文化財に指定



みくるすじんじや 御栗稻神社 町指定文化財(天然記念物)



しんせいひつどうらつか 信西入道塚 町指定文化財(史跡)



おおみちじんじや 大道神社 本殿及び棟札類が町指定文化財

出典：宇治田原町HP

上流ブロック	国宝・重要建造物		世界遺産			国指定史跡名勝天然記念物						京都府指定・登録等文化財						文化財環境保全地区	
	重文	国宝	—	特別	—	特別	—	特別	—	特別	—	特別	—	特別	—	特別	—		特別
伏見区	3(23)	1(7)																	
宇治市	1(13)	0(3)	0(3)									0(7)	0(3)	0(1)		0(2)			0(2)
宇治田原町													2						2

※数字：ブロック内の件数 ( )：市・町内全件数 ※国宝、特別史跡の件数は、重要文化財、国指定史跡の件数の内数である。



# 3. 既往災害

## 過去の著名洪水

- 昭和28年8月の南山城水害では、時間雨量100mmを記録し、氾濫や土石流の発生、堤防の決壊などによって甚大な被害が発生した。
- 昭和28年9月の台風13号では京都府域全体が大雨に見舞われ、宇治川の堤防が決壊するなど、圏域内の各地で浸水被害が発生した。

昭和28年災害		人的被害		住宅被害				
		死者・行方不明	負傷者	全壊・流出家屋戸数	半壊戸数	床上浸水	床下浸水	合計
8月	南山城水害 <sup>1)</sup>	336	1,366	752	554	1,649	2,721	5,676
9月	台風13号 <sup>2)</sup>	2	55	100	215	1,201	4,035	5,557



田原川  
(犬打川と田原川の合流点付近・綴喜郡 宇治田原町 豊田)  
出典: 京都府の昭和28年災害

出典: 1) 京都府の昭和28年災害 2) 南山城水害誌



- 昭和28年災害の他、昭和61年7月、平成7年8月等の洪水により、古川の氾濫原で浸水被害が発生した。

種別	年災	S28		S34		S35	S36			S61	H7
		8月	9月	8月	9月	8月	6月	7月	10月	7月	8月
浸水面積(ha)		141	5,314	1,905	1,448	400	1,219	-	1,047	474.3 <sup>※</sup>	20 <sup>※</sup>
浸水戸数(戸)	床上	70	5,524	3,463	860	1,003	201	-	1,456	197	6
	床下	530	7,360	15,993	797	3,227	1,947	-	802	3,077	277

※: 農地冠水面積

出典: 旧宇治土木工営所、旧京都土木工営所、京都府城陽排水機場パンフレット

## 過去30年の水害

- 近年最大の被害となった昭和61年7月の梅雨前線豪雨などにより、家屋浸水の被害が発生している。
- 平成11年6月、平成16年8月には、50mm/hrを超える集中豪雨に見舞われ、内水浸水被害等が発生した。
- 平成20年以降は、局地的豪雨により古川や井川流域で内水浸水被害等が発生している。

河川名	年月	洪水名	原因	床下浸水(棟)	床上浸水(棟)	出典	備考
古川	昭和57年8月	台風10号	有堤部溢水	3	0	水害統計	
	昭和58年8月	豪雨	無堤部浸水	6	0	水害統計	
	昭和58年9月	台風10号	無堤部浸水	6	0	水害統計	
	昭和61年7月	梅雨前線豪雨		1,423	119	京都府HP	城陽市、久御山町
	平成2年9月	台風19号	内水	1		旧宇治土木事務所資料※	城陽市寺田
	平成7年8月	集中豪雨	無堤部浸水、内水	272	5	旧宇治土木事務所資料※	城陽市寺田
井川	平成11年6月	集中豪雨	内水	1		旧宇治土木事務所資料※	城陽市寺田
	平成20年6月	大雨		5		京都府災害警戒本部資料※	城陽市、久御山町
	昭和58年8月	豪雨	無堤部浸水	1		水害統計	
	昭和61年7月	梅雨前線豪雨	内水	1,654	78	京都府HP	宇治市
	平成5年8月	集中豪雨	無堤部浸水、内水	39	1	旧宇治土木事務所資料※	宇治市伊勢田、小倉
	平成11年6月	集中豪雨	無堤部浸水、内水	53	8	旧宇治土木事務所資料※	宇治市伊勢田、小倉
	平成11年9月	豪雨	内水	1		水害統計	
	平成12年11月	台風20号		3		「宇治市地域防災計画」資料※	宇治市伊勢田ウトロ、井尻
	平成20年6月	大雨		128	6	京都府災害警戒本部資料※	宇治市伊勢田、小倉
	平成20年7月	集中豪雨		7	1	京都府災害警戒本部資料※、京都府河川防災情報※	宇治市伊勢田ウトロ
名木川	平成21年6月	大雨		179	8	京都府災害警戒本部資料※	宇治市伊勢田、小倉
	平成23年7月	大雨		25	2	京都府災害警戒本部資料※	宇治市小倉
	昭和58年8月	豪雨	内水	4		水害統計	
井川・名木川	平成20年6月	大雨		2		京都府災害警戒本部資料※	宇治市大久保
	平成21年6月	大雨		27		京都府災害警戒本部資料※	宇治市大久保
井川・名木川	平成13年7月	集中豪雨		6		「宇治市地域防災計画」資料※	井川(宇治市小倉、陸山)、名木川(宇治市広野)
東高瀬川	平成11年6月	梅雨前線豪雨	内水	54	5	水害統計	
	平成3年7月	豪雨		7		京都市資料	京都市伏見区
	平成元年9月	豪雨		12		京都市資料	京都市伏見区
七瀬川	平成3年7月	豪雨		1		京都市資料	京都市伏見区
	平成11年6月	梅雨前線豪雨		2		京都市資料	京都市伏見区
山科川	平成16年8月	豪雨		1		京都市資料	京都市山科区
旧安祥寺川	昭和58年9月	台風10号		1		京都市資料	京都市山科区
	平成16年8月	豪雨		41	3	京都市資料	京都市山科区
西野山川	平成16年8月	豪雨		3		京都市資料	京都市山科区
安祥寺川	平成11年6月	梅雨前線豪雨	内水	11		水害統計	
四宮川	平成11年6月	梅雨前線豪雨	内水	4		水害統計	
門口川	昭和57年8月	台風10号	内水	12		水害統計	
	昭和61年7月	梅雨前線豪雨	内水	2		水害統計	
兼渡川	昭和61年7月	梅雨前線豪雨	内水	3		水害統計	
大導寺川	昭和61年7月	梅雨前線豪雨	内水	2		水害統計	
禰定寺川	昭和61年7月	梅雨前線豪雨	内水	3		水害統計	

※: 京都府HP(平成20年度公共事業評価調査古川広域基幹河川改修事業の出典)より



平成7年8月  
井川の溢水による道路冠水(宇治市)  
出典: 山城北土木事務所



古川の溢水による道路冠水(城陽市種尻)  
出典: 京都府城陽排水機場パンフレット

# 4.治水の現状（治水事業の経緯）

## 治水事業の経緯

### これまでの治水対策

- 田原川では、昭和28年の浸水被害を契機に災害復旧事業が実施され、河道拡幅等の整備が行われた。
- 四宮川では、昭和31年度より河道整備が行われ、暫定断面でおおむね整備済みである。
- 山科川、旧安祥寺川(当初区間)、安祥寺川では、沿川の宅地化に伴い、それぞれ昭和37、45、45年度より、河道拡幅、掘削に着手し、上流部を除いて完成している。
- 東高瀬川では、昭和44年度より、下流から河道拡幅及び掘削を進めており、上流部を残して完成している。
- 合場川、堂の川では、それぞれ昭和45、52年度より河道改修を進め、完成している。

【田原川】



【山科川】



【旧安祥寺川】



【四宮川】



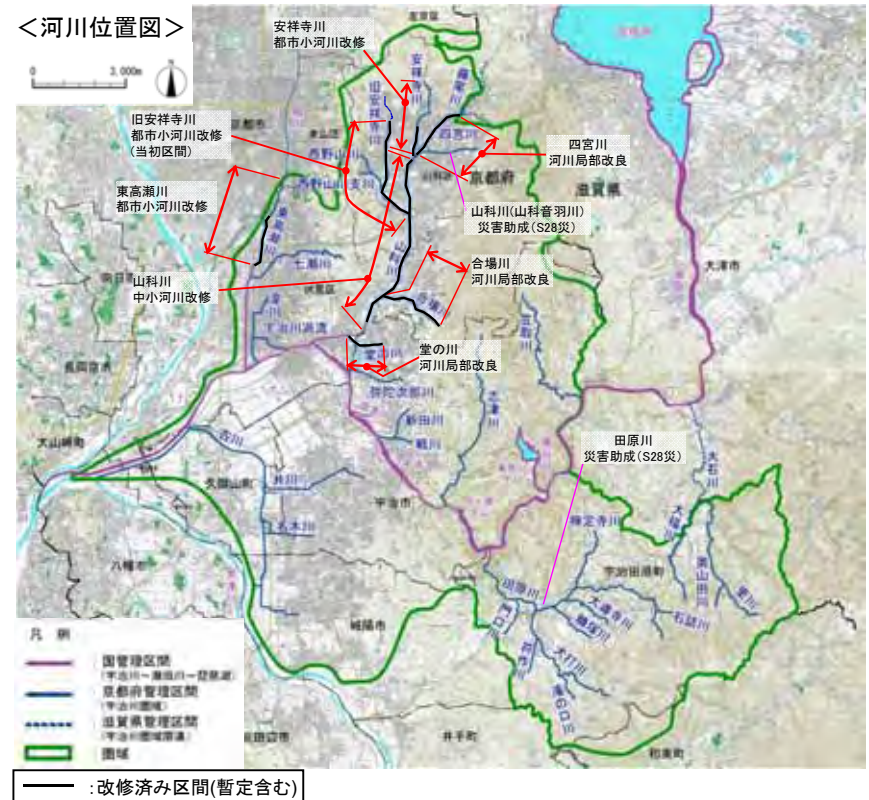
【東高瀬川】



出典:京都市資料

### 主に平成時代以前に実施された河川改修事業

#### <河川位置図>



# 4.治水の現状と課題（主な河川の改修状況）

## 主な河川の改修状況

### 近年の治水対策

- 古川では、昭和46年度に事業着手した。昭和61年7月の浸水被害を契機に、「河川激甚災害対策特別緊急事業」により城陽排水機場を設けるなどの整備を進めてきた。
- 古川支川の井川では、昭和60年度に事業着手し、河道掘削と護岸整備が進められている。

- 弥陀次郎川では、平成2年度より、下流から堤防整備や河道掘削などを進めている。
- 七瀬川では、平成4年度より事業着手し、下流区間の上下二層式河川が平成19年度に完成した。
- 戦川では、昭和54年より事業着手し、下流から堤防整備や河道掘削などを進めている。

### 古川

- 河川改修上のネック区間であった古川橋の架け替えに平成16年度着手し、平成19年度に完成した。城陽排水機場は平成2年に完成し、平成9年3月にポンプを増設した。

【改修前】



出典：京都府資料

【改修後】



【城陽排水機場】



出典：京都市城陽排水機場パンフレット

### 七瀬川

- 平成4年度より、下流区間の上下二層式での改修を進め、平成19年度に完成した。上部はせせらぎ河川となっている。

【二層式河川のイメージ】



出典：京都市資料

【せせらぎ河川】



### 井川（古川支川）

- 古川合流点から遊田橋付近まで計約1.4kmの区間が完成している。

【砂田橋付近改修済み区間】



出典：京都府資料

### 弥陀次郎川

- 全体計画延長760mのうち、雲雀橋を含めた約195mが改修済みである。

【改修前】



出典：京都府資料

【改修後】



### 戦川

- 昭和54年度より、下流から河道拡幅や引堤を進めている。

【新田川合流後改修済み区間】



出典：京都府資料